

資料66-2-2

科学技術・学術審議会

研究計画・評価分科会

宇宙開発利用部会

(第66回) 2022. 4. 22

イプシロン6号機による民間商業衛星打ち上げの 政策的意義について

2022年4月22日

研究開発局

宇宙開発利用課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



開発中のイプシロンSロケットを用いた打上げ輸送サービス事業者に選定されている民間事業者（株式会社IHIエアロスペース）から、イプシロンロケット6号機の余剰スペースに国内民間企業の地球観測用小型衛星（小型SAR衛星）を搭載する提案があった。

文部科学省でこの提案の意義・価値について検討した結果、宇宙基本計画の観点から、以下の政策的意義を持つものと判断し、革新的衛星技術実証3号機の打上げスキームを一部変更し、この提案の実現を追求することとした。

- ◆ イプシロンロケットは、我が国が自立的に宇宙活動を展開するうえで必須のインフラであり、安定的に維持していくためには、政府衛星の打上げへの優先的使用に加え、ロケット打上げ市場の競争環境等の動向を踏まえ、民間衛星の打上げ需要に対応すること等により、多くの打ち上げ機会を獲得していくことが重要である。本件の実現により民間衛星の打上げ実績を得ることで、今後のイプシロン/イプシロンSの利用拡大への端緒が開かれ、民間移管を通じて国際競争力の向上につながることを期待される。
- ◆ 今回の民間衛星打上げ受注を契機としたイプシロンの利用拡大を通じて、我が国の宇宙活動の自立性が確保されるとともに、小型衛星事業を始めとする宇宙利用が拡大し、宇宙産業そのものの拡大・発展につながることを期待される。

宇宙基本計画

- ▶ 我が国の宇宙活動の自立性の確保に向けて、H-IIA/B ロケット、戦略的技術として重要な固体燃料ロケットのイプシロンロケットとともに、H3 ロケットを新たに基幹ロケットと位置付け、H3 ロケットを完成させることを含め、基幹ロケットの開発・高度化等を継続的に進めるとともに、H3 ロケット及びイプシロンロケットについて、官民の役割分担を整理しつつ民間移管を進め、基幹ロケット技術の継承を着実に行う。また、このため、政府衛星を打ち上げる場合には引き続き、基幹ロケットを優先的に使用するとともに、ロケット打上げ市場の競争環境等の動向を踏まえつつ、基幹ロケットの効果的・効率的な維持に必要な措置を講ずる。さらに、基幹ロケットの射場及び試験設備の適切な維持・管理に向けて、老朽化対策等の必要な措置を引き続き実施する。

(宇宙基本計画 4. 宇宙政策に関する具体的アプローチ (5) 産業・科学技術基盤をはじめとする宇宙活動を支える総合的な基盤の強化 より抜粋)

- ▶ 宇宙機器産業の事業規模として、官民合わせて10年間で累計5兆円の目標を掲げた。この目標の達成に努めつつ、世界的に期待される宇宙機器産業の拡大や新たな宇宙活動の広がりを我が国の経済成長に最大限取り込むとともに、宇宙システムを基盤とする産業の拡大を促進することによって、我が国の宇宙利用産業も含めた宇宙産業の規模(約1.2兆円)を2030年代早期に倍増することを目指す。

(宇宙基本計画 4. 宇宙政策に関する具体的アプローチ (4) 宇宙を推進力とする経済成長とイノベーションの実現 より抜粋)